

忘年会シーズンにはお薬の服用にもご注意ください！

今年も残すところあと1か月半になり、お酒を飲む機会が増えてくる時期が近づきました。そこで、今回はアルコールと薬の関係についてご紹介します。

アルコールは薬の代謝に影響をおよぼす

アルコールが肝臓で代謝されることはご存知でしょうが、ほとんどの薬も同様に肝臓で代謝され効果がなくなっていきます。ところがアルコールと一緒にになるとアルコールが薬の代謝を抑えてしまい、薬の作用が増強され、思わぬ副作用が出る場合があります。特に強心薬や抗凝固薬などには注意が必要です。

ただし、アルコールを常飲している人では、逆に薬の代謝を促進し、効果が出にくいことがあります。また、代謝が促進されたため、薬の副作用が増える場合もあります。

アルコールと薬の相加作用

アルコール自体に鎮静や睡眠、血管を拡げる働きがあるため薬の効き目を増強する場合があります。抗アレルギー薬や降圧薬、狭心症治療薬、安定薬、睡眠薬、抗うつ薬などを服用する場合は気をつける必要があります。鎮痛薬では胃腸への影響が出やすくなったり、糖尿病薬ではインスリンの働きを強め、低血糖を起こしてしまうこともあります。

薬剤部長

かどわき ひろみ
門脇 弘美



アルコールの代謝が阻害される

薬によっては、アルコールの代謝を抑え、二日酔い状態（頭痛、顔面紅潮、心悸亢進、血圧低下、吐き気等）を引き起こすものがあります。例えば、抗酒薬や一部の糖尿病薬・抗生物質・抗真菌薬・抗トリコモナス薬などの服用時には禁酒となります。

一般にアルコール飲料と言われているビールや日本酒、焼酎、ワイン、ウイスキーなど以外にも注意すべき飲み物があります。医薬品として市販されているドリンク剤の多くはアルコールを含んでいますし、炭酸飲料水・清涼飲料水の中にも入っている物があり、大量に飲む場合は用心しないとイケません。

薬それぞれに相性があることを理解して、薬の服用中にお酒を飲む機会がある場合は、主治医・薬剤師にご相談ください。薬をより安全に正しくお使いいただくためにも、薬と上手に付き合ってくださいと思います。

皆様から寄せられたご意見について

西伯病院をご利用いただき皆様からいただいたご意見、ご意見に対する回答の一部を紹介させていただきます。今後も皆様からのご意見を参考に業務改善に努めてまいりますのでご理解、ご協力をお願いします。



ご意見①	診療の待ち時間が長すぎるので、もう少し方法を考えてほしい。
回答①	複数の医師がいる診療科では予約診療を行い待ち時間の短縮を図っていますが、整形外科など医師が1人しかいない診療科では、待ち時間が長くなりご迷惑をおかけしています。また、救急の場合など病状によっては診療・処置時間が長くなったり、手術が必要な場合には、外来診療を中止することもあります。様々な状況に対応する必要がありますので詳しくはその都度、外来の担当看護師がご説明しますのでご了承ください。
ご意見②	看護師の対応が悪いので、接遇のマナーを勉強させてほしい。
回答②	患者様の1日も早い回復を願って看護をさせていただいておりますが、患者様並びにご家族様に不快な思いをさせてしまい誠に申し訳ございませんでした。深く反省し、今後は接遇研修を行い、このようなことがないよう努力いたします。
ご意見③	食事は従来からマンネリ、大学病院と比較して改善してほしい。
回答③	貴重なご意見有難うございます。お食事の内容につきましては患者様の病状により主治医からの指示を受けて管理栄養士が献立を作成しております。病状によっては患者様のご意向に添えない食事内容になる場合もございます。お食事内容についてお尋ねになりたいことがありましたら栄養士がお伺いいたしますので、お申し付けください。

※ 平日の午前中は病棟での処置がありますので、面会をご遠慮いただきますようお願いいたします。